

令和6年度 学校自己評価システムシート (県立浦和西高等学校)

(A3判横)

目指す学校像	自主自立の精神を生かして、国際社会に貢献できる人材を育成し、地域に信頼される進学校
--------	---

重点目標	1 確かで高度な学力を確立し、第一志望を実現する質の高い授業の実践 2 地域に信頼され貢献できる生徒の育成 (信頼される人間力の育成) 3 たくましく健やかな心身の育成
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	12名

(書面審査及び意見書の提出による)

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	「確かで高度な学力の確立」の指標となる大学合格実績は、令和5年度卒業生も近年の高水準を堅持し、難関大学現役合格者数をさらに増加させた。教員が生徒を尊重しつつ、献身的に指導を行い、生徒は自主自立の精神をもって、高い志を掲げ、全力で努力する。本校の躍進が続いている。 本年度は、一人一台タブレットの導入2年目となり、iPadを含めたICTの効率的かつ効果的な活用が課題である。	高い志を持って目標を設定し、「確かで高度な学力」を身に付け、最後まで諦めることなく第一志望実現に挑む生徒を育成する。	1 「確かで高度な学力」の育成、第一志望の実現 ①大学入学共通テストをはじめとする新制度入試の動向把握と生徒への情報提供、学習指導への反映 ②進路相談や個人面談等による個別に応じたきめ細やかな進路指導の実践 ③進学校12校を対象とした県教育委員会事業「オンライン連携講座事業指定校」を活用した学習指導・進路指導の推進	①②③難関大学の現役合格者数増加 国立・早慶上理・GMARCH (昨年度352名)	①大学入学共通テストの動向について学年集会等で情報提供を行うとともに、授業においても共通テストに向けた学習を取り入れるなどの工夫ができた。【生徒85.1%、保護者77.2%が肯定的】 ②各クラス担任が個人面談を複数回実施し、進路だけではなく、生徒の学習状況や学校生活等の困りごと等を適時に把握することができた。【生徒88.6%、保護者85.4%が肯定的】 ③「オンライン連携講座事業指定校」として、講座を5講座開講するとともに、全校生徒へ周知することで、本校からも他校で開講する講座に申込をする生徒が昨年度よりも増加した。	A	・生徒・保護者ともに「学習指導」と「進路指導」を学校に期待している。学年を問わず、保護者から「進学」や「基礎基本」に係る補習のさらなる充実を求める意見が見られた。 ・次年度は1,2学年がiPadを活用するように、より効果的・効率的な活用方法を検討する。
		「確かで高度な学力」を身に付けさせる質の高い授業づくりを推進するとともに、生徒一人一人の進路希望に対応した多彩で効果的な学習機会を提供する。	2 質の高い授業の実践 ①生徒による授業評価アンケートの実施(年2回)、シラバスを活用した授業改善 ②一人一台タブレットに関して、iPadを含めたICTを活用した学習指導の充実と活用方法の研究、検証 ③生徒の主体的、探究的な学びを創出するため、総合的な探究の時間の充実を図る ④教科内研究協議、校内授業相互見学、外部講座等による授業改善 ⑤観点別評価を活用した学習指導の充実 ⑥「55分授業」(令和7年度より)に向けた授業計画の構築や指導内容の充実を図る	①授業満足度の向上 (昨年度88.0%) ②一人一台タブレット、ICTを活用した指導の拡大・向上の状況 ③総合的な探究の時間の実施状況 ④⑤⑥授業力向上研修の拡大・向上の状況	①④⑤年度当初にシラバスを作成し、指導計画や評価方法を生徒と共有することで指導と評価の一体化に取り組んでいる。また、授業評価を1、2学期末に実施するとともに、校内授業相互見学期間を設け、授業改善に向けて取り組んだ。生徒の授業満足度は「90.5%」だった (R5_88.0%) ②1学年において、一人一台端末にiPadを採用し、国語、数学、理科を中心にMetamojiを活用した授業を展開し、教材の活用だけではなく、生徒の取組状況等を適時に把握し、個別に指導するなど、ICTの効果的な活用につなげている。【生徒71.2%が肯定的】 (R5から13%アップ) ③総合的な探究の時間では、全学年を俯瞰した計画のもと、社会課題をはじめ修学旅行、個人の興味関心について探究をスタートすることができた。 ⑥教務部を中心に、55分授業に向けた日課表や年間行事予定を計画し、実授業時数の目安が示されたため、今後授業内容等の計画を図る。	A	
2	学校HPを活用するとともに、学校説明会や文化祭の公開、斜面林保全活動に取り組むなど、開かれた学校づくりを推進しており、本校に対する地域の信頼が高まっている。 本年度は創立90周年であり、歴史と伝統のある西高の90周年記念事業(講演会及び記念誌の発行)を着実に実施するとともに、地域との交流の充実が課題である。	学校HP等のさらなる充実を図り、学校の教育活動の魅力を積極的に発信し、開かれた学校づくりを一層推進することにより、地域・県民との信頼関係をより強固なものにしていく。	1 本校の特色、教育活動の状況、生徒の活動の発信 ①情報発信の中心である学校HPの充実 ②保護者アンケートの導入 ③学校説明会の効果的な実施、部活動見学会等の開催 ④中学校や学習塾が実施する高校説明会への参加	①HPの構成、コンテンツの改善・充実の状況 ②保護者アンケート結果の状況 ④入試の志願者率の状況	①学校HPを225回更新し、生徒や本校の教育活動の取組を発信した。アクセス数は1日平均3200件であった。(1月18日現在)【保護者74.1%が肯定的】 ②本校の教育活動を振り返り、次年度へつなげるため、生徒および保護者に学校評価アンケートを2学期末に実施した。 ③4学年説明会を6回実施し、参加者は3686名(R5_3834)であった。また、部活動体験も204名(R5_193)が参加した。県や中学校、学習塾等が主催する説明会に5回参加し、本校の教育活動をPRすることができた。	A	・土曜授業の廃止にとともに、学校説明会の回数等の見直しが行われたため、HP等を活用し、本校の魅力積極的に発信していく必要がある。 ・地域に信頼される学校づくりのため、地域との連携は不可欠であり、斜面林友会の会他、学校側からも主体的な取り組みを検討する必要がある。
		歴史と伝統ある西高の一員として、90周年記念事業に積極的に関わり、地域との交流や社会貢献活動に取り組むことができる生徒を育成する。	2 地域交流活動の実施、90周年記念事業の実施 ①PTA・後援会と連携した事業の推進 ②斜面林友会の会と連携した斜面林保全活動の推進 ③生徒会主催クリーンアップ作戦(地域清掃)等社会貢献活動、ボランティア活動への参加促進 ④創立90周年事業(講演会)の実施と90周年記念誌の発行	①②③地域交流活動、社会貢献活動の実施の状況 ④創立90周年事業等の実施状況	①PTA・後援会により「西高を語る会」や「よりみち西高(講)座」等を実施することができた。また、斜面林友会の会主催の「焼き芋大会」や活動、会議の場で生物部が研究報告を行うなど、多くの生徒が関わることができた。【保護者85.9%が肯定的】 ③クリーンアップ作戦といった地域への貢献活動は実施できていないが、美術部や音楽部等がロータリークラブと連携した取り組みを行った。 ④11月1日に埼玉会館を会場に本校卒業生を講師に迎え「記念講演会」を実施するとともに、同日90周年記念誌を発行することができた。	A	
3	全校生徒が授業や学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、学習面・生活面でしっかり自己管理しながら取り組んでいる。自ら考え、課題を発見し、その課題を解決する力(西高力)を伸ばさせた。 課題は、遅刻者数の増加、交通マナーへの対応である。また、生徒の海外派遣や留学生との交流などグローバル(国際理解)教育の着実な実施である。	学習面・生活面で自己を管理し、授業や学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加することで、「西高力」(自ら考え、課題を発見し、その課題を解決する力)を育成する。	1 自己管理能力の育成 ①朝学習・家庭学習の奨励、学習支援ツールの活用による支援 ②部活動・生徒会活動・学校行事の充実 ③自己管理能力の育成 生徒指導部による交通マナー指導、遅刻防止指導の徹底 生徒会主催のUNマナーアップ作戦(交通マナー遵守)の実施	①授業以外の自主的学習時間の増加 ②部活動加入率の維持・向上 (昨年度105%)、生徒会活動・学校行事の実施状況、執行部参加生徒数の増加 ③年間遅刻者数減少、交通マナーの遵守の状況	①学習支援の一つとして「スタディサプリ」を全学年で導入し、復習や予習の他、生徒自身による学習状況の確認を行うことができています。 ②各種行事は生徒が中心となって実施することができ、生徒の成功体験につなげることができた。部活動の加入率は100.5%であった。【生徒89.8%、保護者91.2%が肯定的】 ③各クラス担任や生徒指導部を中心に、時間を守ることや他者への配慮など事故防止やマナー向上に向けて適時に指導を行った。遅刻者数は12月末現在2184名(R5_2224)であった。	B	・生徒主体の学校行事の満足度は高く、遅刻も昨年度に比べると減少傾向であるが、時間を守ることや他者への配慮に関する指導が必要である。
		地域や国際社会に貢献、活躍するリーダーを育成する教育を充実させる。	2 グローバル(国際理解)教育の着実な実施 ①オーストラリア交流、研修事業の実施 ②留学生の受入、海外派遣事業への参加	①オーストラリア交流、研修事業の実施状況 ②留学生の受入、海外派遣事業への参加状況	①オーストラリア海外研修を実施するとともに、ALTとのTTによる語学教育の充実や、外務省の講師による講演会を実施するなど、国際理解教育を着実に実施することができた。 ②2学期からベルギーからの留学生を受け入れ、県のグローバルリーダー育成事業に1名生徒を派遣した。また、2学年では県の実証研究としてAIによるスピーキング教材にも取り組んだ。	A	・県のGL育成事業やロータリークラブ主催の留学事業への希望者が少ないなど、保護者への情報提供も検討が必要である。

学校関係者評価	実施日 令和7年2月3日(月)
学校関係者からの意見・要望・評価等	○進路指導のアンケートでは、保護者の75%以上が肯定的な意見である一方で、残りの25%は否定的である。保護者からは補習の充実を求められているが、「授業の充実」が図られれば、この満足度は転じていくだろう。 ○各自で学習する時間を適切に確保するために、どう一人一台端末を活用するか考えることが重要。特に、各教科ではAI等で代替できない「思考力」の育成について、十分に時間をとることができるよう、指導内容・指導方法の研究に取り組んでもらいたい。 ○教職員が教材研究を徹底するとともに、授業相互見学期間を設け、授業改善につなげており、授業満足度が高いことは評価できる。土曜授業を行わず、55分授業に代わる令和7年度の実績が期待される。今後とも、生徒一人一人の学習状況や進路意識、学校生活の状況を適切に把握し、指導する、細やかな指導の継続を期待している。 ○端末について、活用することそのものが目的にならないよう、メリハリを持って活用するなど、使い方に関する指導もしてもらいたい。
○地元の中学生にとって、西高の「自分たちで考え、新しいものを生み出す校風(自主自立)」は強い憧れの的である。 ○保護者のへのアンケートを実施し、学校の教育活動を振り返ることには良い取り組みである。進路や留学などは生徒に話しをするだけでなく、保護者に担任や担当者から直接伝えることも有効であり、「学級懇談会」の開催を願っている。 ○「斜面林友会の会」の活動には、PTA・後援会の他、生物部も参加してくれてありがたい。保全活動には様々な活動があり、生徒たちには余暇時間等(土曜日)を活用して、同じ地域に暮らす人々が、環境保全や地域のことなど、それぞれの思いを語りあうことや体験することで、視野の広がりや将来の引き出しにつなげてもらいたい。(福祉も同様)	
○高校においても通学時の安全やマナーの確保については課題となっており、これは地元小中学校でも同様の課題となっている。小中学校では「挨拶運動」等を計画しており、高校も協働してもらえると、キャリア教育の観点からもよい取り組みになると思う。 ○90周年記念講演会や人工芝披露式に参加したが、他者が集まる際の態度や振る舞いに、西高生としての自覚があることに誇りを感じた。 ○本校を卒業した生徒は高校での学びや経験を糧に、様々な仕事に就いている。外務省の講師による講演会や未来の種講演会など、キャリアを意識させた取り組みを充実させ、生徒にも「やりたいこと」や「志」を見つけてもらいたい。	